経営基盤強化計画

「特定業種」指定へ向け
事前相談受付け
専門工事業団体に対し

国土交通省

国土交通省は9日の建設産業経営革新研究会で、構成する専門工事業団体に対し、中小企業経営革新支援法に基づく経営基盤強化計画の「特定業種」指定に向けた事前相談を受け付ける方針を打ち出した。

経営基盤強化計画は、政令で指定した特定業種に属する中小企業者で構成する特定組合が策定し、技術開発や市場開拓施策などを盛り込む。主務大臣の承認を得た計画は、低利融資や機械などの割増償却、特別土地保有税・事業所税の非課税化などが受けられ、特定業種にとってセーフティネット的な役割を果たす。また、今月1日に制度改定して、助成対象の業種指定を廃止した雇用調整助成金についても、同計画に基づく業種の企業は引き続き助成を受けられる。

特定業種の指定要件は①中小企業性の高さ②経済的環境の著しい変化による影響③生産・取引額の相当程度の減少―で、これまでに、清酒製造業と電気めっき業、船舶機関・船舶用品製造・修理業が指定されている。要件の①と③については建設業も適合するが、②は、貿易構造や法規制の変化に伴うもので、一時的な景況の悪化は含まないと規定しており、建設業の指定は難しいとされてきた。しかし、建設業界の業況悪化が長引き、指定の可能性もでてきたことから、指定に関心のある専門工事業団体の事前相談を受け付けることにした。

また、14年度以降の指定化を踏まえ、各団体に対して経営基盤強化計画の関心についての意向調査も実施する計画だ。

12年度全国生コン監査結果

本県は90工場に合格証

全国生コンクリート品質管理監査会議（議長・長瀧重義新潟大学工学部教授）は10日、生コン工場を対象に実施している12年度の全国統一品質管理監査結果を発表した。立入り監査は、12年4月から12月の間に全国で3126工場を行い、このうち3108工場に「合格証」が交付された。この合格証は、13年4月1日から14年3月31日までを有効期間としているが、同監査会議では、監査をフォローアップするため、13年度中に合格証が与えられた工場のうち約10％の工場を対象に査察を行うことにしている。

監査実施以来4回目となる12年度の監査から、福井県を除くすべての地区が対象となり、全国で3126工場で監査を行った。全国統一品質管理鑑査基準に基づき、総括的事項、個別的事項、実地調査（試験）など119項目（このうち順守すべき事項102項目）について調べ、評価した。

監査の結果、3108工場に合格証が交付され、合格証を交付されなかった18工場のうち9工場は工場閉鎖（監査後）によるものだった。本県では90工場が監査を受け、すべての工場が適合工場となった。

また、基準に適合している場合に交付するマル適マーク（全国共通の識別標識）は、36地区から申請があり、2375工場に交付した。

この監査制度は、生コンクリート業界の一層の品質向上と、購入者に高い評価を得ることを目的として、産・官・学によって構成された品質管理監査会議が、生コンクリート業界からの委託を受けて実施している。なお、全国では13年3月末現在、4662工場がある。

来年

1月11日まで受付け
日建士連13年度懸賞設計競技

日本建築士会連合会（日建士連）は、「まちのデバイス」を課題として13年度懸賞設計競技を実施する。作品提出は14年1月11日まで受け付ける。

今回の課題について、応募要項によると、まちを活性化させ、魅力的な空間にするためのデバイスの提案を求めるものと規定。また、デバイスとは、都市的な装置、地方特有の仕掛けなどで、建築物である必要はなく、現実の形や空間性を持ったものとしている。

同時に、キーワードとして、仮設的、テクノイマジネーション、空間のエディット、多様な速度／運動、新しい地形など数多く掲げている。

応募要領などは次の通り。

▽設計条件＝敷地＝実在のまちを想定し現況を地図・写真などで説明

内容＝応募者の意図を空間的構想として提案すること

▽提出先＝日本建築士会連合会懸賞設計競技事務局（東京都港区芝5－26－20、建築会館5階　☎03・3456・2061）

シラスコンクリート実用化試験

あす、鹿児島市で実施

日研高圧コンクリート等

鹿児島大学工学部海洋土木工学科は日研高圧コンクリート㈱と共同で13日、鹿児島市の日研高圧コンクリート㈱本社工場内でシラスを用いたプレテンション方式橋桁の実用化に関しての試験を行う。試験は、粉末コンクリートがJIS桁であるプレテンション桁に適用できるかどうかを確認するため、プレテンション桁によるプレストレス導入実験や曲げ試験を行い、普通砕砂コンクリートを用いた場合との比較検討を行う。

タワー

建築学会大会行事

幅広い議論で意義深く

日本建築学会（仙田満会長）の2001年度学会大会で行われたパネルディスカッションなどは、深く考えさせられるものが多かった。あらためて重要と思われた発言をいくつか拾ってみる。

まず、「建築紛争は減らせるか」と題したシンポジウムでは、建築基準法や学会の基（規）準類などは生産者の論理で作られているということが、紛争の一つの要因になっているのではないかとして、見直しの必要性が指摘された。これは、専門性の枠にとどまって消費者の視点を疎かにしがちな専門家の姿勢への批判としてもとらえられる。

パネルディスカッション「日本の大都市はどこまで安全か」では、富士常葉大学の重川希志依教授が、人が安心や憩いを得て希望を育む住まいを失うことの重大性を指摘し、地震対策で最も重要な場所として「住まい」を挙げた。本当に必要であるはずの施策が確実に行われているのか、という問いであった。

また、地球環境がテーマのシンポジウム「建築は地球を救えるか」では、建築界外部からのパネリストが意見を述べた。中でも、高秀秀信横浜市長が設計者に対し、「意匠中心で施工の知識がない」などと注文を付けたことは、先の専門性の枠の議論に当てはまるだけでなく、専門技術者の、そして建築生産の川上に立場を置く者の責任を厳しく問うものだった。

建築家・安藤忠雄氏の講演会での発言も高秀市長の言葉と通じ合う。「建築にかかわる人たちの社会的役割は大きい」という言葉や、「故郷を自分たちで直していくことに参加してもらえるように」と取り組んだグリーンネットという活動。これも専門性の枠を越えた語り掛け、行動の重要性を示している。

最後に、大会初日の緊急パネルディスカッションで、日建設計の林昌二名誉顧問がニューヨークの世界貿易センタービル（WTC）のテロによる崩落について述べた言葉を、少し長いが紹介する。

「超高層ビルと旅客機という20世紀の到達点がぶつかったことは象徴的な事件だ。この2つの共通点は、大量なエネルギーの供給がないと成り立たないものということ。（人類、先進諸国が）20世紀にやってきたことに対して復讐を受けつつある。（20世紀の問題を）早く解決しなければならない。21世紀は反省の時期であり、22世紀をちゃんとした世界にするには、今から大急ぎで設計し実行して、やっと間に合うかどうか。日本が世界に役立つ智恵を提供できるはずだ」

WTC崩落事件は、もちろんテロリズムによって発生した特殊な事件ではあるが、林氏は事件そのものを大きな時間の流れの中に置いて、危機感を抱きながら現代文明の根本的な問題としてとらえ直したのである。

今大会での議論は、身近な話題から文明論まで実に幅が広く、いずれも意義が深い議論だった。建築界あるいは建設産業界は、国民生活に密接な産業であり、指摘された課題に着実にこたえていかなければならない。外部の声をこれまで以上に謙虚に聞き、林氏が言うように、現在が22世紀を決定していくのだという危機感を持って、さまざまな「枠」を乗り越えた取り組みを推し進めてほしい。

きょうの天気

地方	天気	風	降水確率
薩摩	晴	北西のち北	0％ 0％
大隅	晴	北西のち北	0％ 0％
種子屋久	晴	北西	0％ 0％
奄美	晴	北のち北東	10％ 10％

※降水確率：上段6時～12時、下段12時～18時

週間天気予報

《概況》向こう一週間は、期間の中頃までは高気圧に覆われ晴れる日が多く、期間の終わりは気圧の谷の影響で曇る。

		鹿児島・種子・屋久地方			奄美地方		
日	曜	天気	降水確率	気温	天気	降水確率	気温
13	土	☀	10%	25° 19°	☀	10%	27° 21°
14	日	☀ 時々 ☁	20%	26° 18°	☀ 時々 ☁	20%	28° 22°
15	月	☀ 時々 ☁	20%	27° 19°	☀ 時々 ☁	20%	28° 22°
16	火	☁ 時々 ☀	30%	27° 20°	☁ 時々 ☀	30%	28° 22°
17	水	☁	40%	26° 20°	☁	40%	28° 22°

行政動静

10月12日（金）

【県庁】
- 知事……出張
- 副知事……出張
- 土木部長……在庁

【鹿児島市】
- 市長……出張
- 木村助役……市内

【鹿児島国道工事事務所】
- 所長……庁外
- 田中副所長……在庁
- 喜多川副所長…在庁

【川内川工事事務所】
- 所長……庁外

【大隅工事事務所】
- 所長……庁外

【鹿児島港湾空港工事事務所】
- 所長……在庁

【志布志港湾工事事務所】
- 所長……在庁

【日本道路公団鹿児島工事事務所】
- 所長……在庁

※予定が変更になることがありますので、ご了承下さい。